

連携パスだより ～がん地域連携パス編～ NO.12

早春の候、先生を初めスタッフの方々におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、がん地域連携クリティカルパスの運用に格別のご高配を賜り、感謝申し上げます。

今回のパスだよりでは、乳がんパスは薬局連携開始の関連情報と肝疾患パスの報告、連携患者さんの声を掲載させていただきます。



2021.3月吉日

乳がんパス

4月より調剤薬局（かかりつけ薬局）にも協力していただけることとなりました!!

連携パス運用を開始して9年が経過しました。これまで連携患者さんの再発予防のため、服薬アドヒアランスの維持、ホルモン療法に対するセルフマネジメント、生活習慣病の予防などを患者さん自身が意識的におこなえるように、受診時には『私のカルテ』を用いながら患者さんの支援をしてきました。

今回、薬機法の改正にて薬剤師による継続的な服薬状況の把握および服薬指導の義務などが法制化され、これまで以上に対人業務の重要性が求められていることを受けて、松江市薬剤師会から「連携パスへの協力をしたい」という声をいただき協力していただくこととなりました。内容としてはホルモン剤処方開始時または処方内容変更時、①松江市薬剤師会作成のリーフレットを活用しての患者指導、②内服開始2週間目に電話訪問にて副作用確認、③調剤時にホルモン剤の残数確認・BMI算定をお願いしていただく予定となっています。今後、継続可能なシステムづくりをしていくよう見直しを重ねていこうと思っておりますのでよろしくお願い致します。

～連携パス協力のお願いの訪問をさせていただきました～



あさひ薬局にて

新しいパス運用の説明に松江市内の連携医療機関とかかりつけ薬局、合わせて10か所に乳がん看護認定看護師と訪問しました。お忙しい診療や業務の中お時間を作って下さり、また、ぜひ協力しましょうという声もたくさんいただき、感謝しております。



日本調剤薬局 松江店にて

日頃より、乳がん地域連携パスへのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、開始後9年間で388名の患者さんにパスを運用してきました。対象となるのは、ホルモン剤内服で治療をする早期乳がん患者さんが主体です。ホルモン治療は5～10年間と長期にわたりますので、患者さんご自身がしっかりと自覚されないと薬の飲み忘れにつながり、期待する効果が得られません。

この度、松江市薬剤師会および保険調剤薬局の皆様より、ホルモン剤のアドヒアランス向上へのお力添えをいただけることになりました。連携パスの更なる充実、発展につながるものと大変うれしく思っています。

今後も多職種の皆様のお力をお借りして、ますます連携パスが乳がん患者さんの健康に資するよう努力をしていきたいと思っております。これからも今まで以上に、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

乳腺外科 曳野 肇



『私のカルテ』自己チェックシート 薬局連携 改訂版

自己チェック項目		kg
BMI	() 薬局	
生活習慣病	血圧	
その他	血糖・HbA1c	
	LDLコレステロール	
	中性脂肪	
自覚症状	食事が美味しく食べられる	
	倦怠感はない	
	気分がよい	
	よく眠れる	
	不正出血がない	
	おりもの状態も変わらず、陰部のかゆみもない	
	関節のこわばりや痛みはない	
	ホットフラッシュがない	
自己検診日		月 日
自己検診	乳房にしこりがない	
	皮膚のへこみ、ひきつれがない	
	手術痕の周囲に赤みや熱感がない	
	乳頭のへこみやただれがない	
	乳汁の分泌がない	
	わきの下に硬いものが触れない	
リハビリ	腕や肩を動かすと痛みがない	
	手術前と同じくらい腕があがる	
	腕にむくみや違和感がない	
	腕が赤く腫れたり熱を持ってはいない	
その他 (自由記載欄)	気になる症状がある	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
	飲み忘れ回数	<input type="checkbox"/> 紹介状
		<input type="checkbox"/> 連絡メモ参照

かかりつけ薬局薬剤師さんへ

ホルモン剤処方開始時または処方内容変更時、①松江市薬剤師会作成のリーフレットを活用しての患者指導、②内服開始2週間目に電話訪問にて副作用確認、③調剤時にホルモン剤の残数確認・BMI算定をお願いいたします。

連携医療機関の先生へ

ホルモン剤の残数が多い場合や大幅な体重変化等のケースに対して、調剤薬局からの報告を連携医療機関の先生にお願いさせていただきたいと考えております。次回の受診時で構いませんので、フォローをお願いいたします。お忙しい中恐縮ですがご理解とご協力をいただけたら幸いです。

アドヒアランスが向上を目指した連携強化

昨年、乳腺外科からホルモン療法のアドヒアランスの低下が治療効果に影響すると思うので、地域連携パスに調剤薬局の薬剤師さんにも協力して貰う事で改善を図りたい。こんな話から地域連携パスへの関わりがスタートしました。文献検索を行うと、患者のコンプライアンスが90%以上と未満群で無増悪生存率を比較すると、5年目以降少しずつ差が開く結果でした。(図1)更に外来でも何らかの介入をした群と、しない群では介入群がアドヒアランスは良いと言う論文もを見つけました。次にこのデータを持って、乳腺外科医師、看護師と共に松江市薬剤師会の代表の先生へ相談しました。すると、快く協力を引き受けて下さいました。

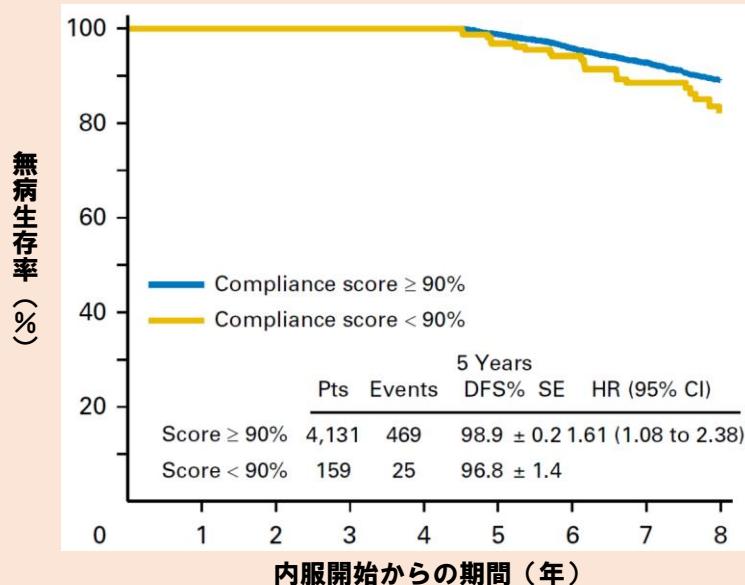
ただ、問題点として、調剤薬局では、パスの患者かどうか把握できないこと、調剤薬局で総合的な指導に使える資材を一緒に作って欲しい。との要望がありました。

そこで、先述した『私のカルテ』の改訂等を行い、この4月より本格的に調剤薬局も地域連携パスの枠組みに参加する事となりました。今後も地域連携の和を広げていき、患者さんが安心して外来で治療が行える環境を作っていければと考えています。

薬剤部 大谷 豊司



図1 術後補助療法のコンプライアンスと無病生存率



コンプライアンス	患者数								
	4,131	4,131	4,131	4,131	4,077	3,894	3,368	1,968	
≥90%	4,131	4,131	4,131	4,131	4,077	3,894	3,368	1,968	
<90%	159	159	159	159	151	139	112	54	

J Clin Oncol 34:2452-2459 2016 一部改訂

肺がんパス・胃がんパス・大腸がんパス

当院の受診が半年毎になるため、腫瘍マーカーの採血をお願いいたします。(例：1月に手術→1月・7月当院受診時に採血実施します。連携医療機関での採血は4月・10月となります。)

パスの種類	腫瘍マーカー項目	
胃がん	CEA	CA19-9
大腸がん	CEA	CA19-9
肺がん	CEA	CYFRA
肝がん	AFP	PIVKA-2
肝がん早期発見	AFP	PIVKA-2

肝がんパス・肝がん早期発見パス

平素より肝疾患連携パスに対する御理解、御協力、誠にありがとうございます。肝炎ウイルスは薬物治療によりコントロール可能な時代になりました。C型肝炎については持続的なウイルス陰性化が2-3ヶ月の内服によって99%達成され、B型肝炎についてもごく一部の耐性変異を有する例を除けば、血液中のウイルス陰性化を維持可能です。しかし以前からウイルス陰性化後の発癌は、臨床における問題点のひとつであり、ウイルス管理後5年、10年後の発癌症例も報告されていることも事実です。肝硬変、肝癌既往例はハイリスク群として外来でも困り込みを行っています。今後は非硬変肝症例においても広範な肝癌スクリーニングの実施が求められます。

現在当院においては、3名の肝臓専門医でフォローを実施しています(令和3年度からは2名になります)が、限られた外来枠で実践していくことにも限界があります。このため、当院の外来看護師で癌パスの専門員を任命し、市内の先生方を訪問させていただき肝癌パスに対する理解を深めていただいた上で、御理解と御協力をいただいている次第であります。おかげさまで令和2年度は約20人の新規症例を登録させていただきました。これにより充実した肝疾患外来を実践することが可能となってきており、大変感謝致します。これからも引き続き宜しくお願い申し上げます。

消化器内科 花岡 拓哉

連携患者さんからの声

パスをきっかけに内科のかかりつけができたので生活習慣病の相談もできて安心です。

もともとかかりつけだった先生にがんをみつかった。日赤への紹介もスムーズにもらい、お陰で早期発見で術後も定期受診している。感謝している。

県西部から松江へ受診する手間が少なくなったことはありがたい。10年以上通院している馴染みの先生に、がんも診てもらえて安心できる。

日赤に受診の時は、前日から宿泊して受診している。自宅近くで薬がもらえて助かります。

連携医療機関の先生方のお陰で、患者さんから「安心できる」という声をたくさんいただきました。今後も患者さんを第一に、一丸となって支えていけたらと思っています。

ご不明な点等ございましたらいつでもどんな内容でも対応いたしますので、ご連絡して頂けたらと思います。今後とも連携パス運用へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

連絡先：松江赤十字病院
地域連携課
TEL:0852-32-7813
FAX:0852-27-9261